

# SEED

3月号



**特集** 母子生活支援施設

のぞみ荘

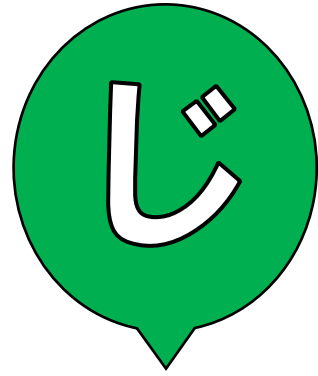
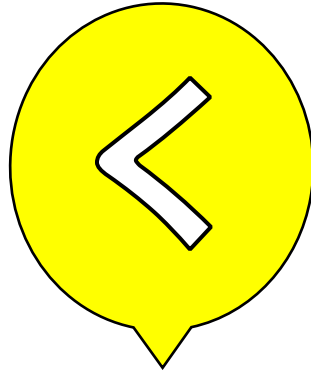
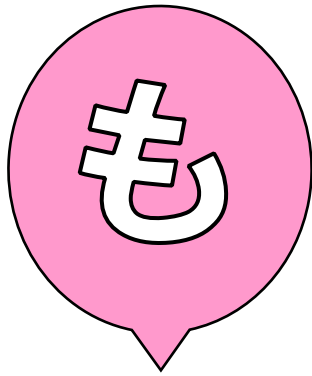
×

メゾン・ド・あじさい

**PICK UP**

宿泊所 **綾瀬荘**

宿所提供施設 **葛飾荘**



**巻頭**

**理事 インタビュー**

P.3

**特集**

**母子生活支援施設**

P.4~9

**施設紹介**

のぞみ荘 × メゾン・ド・あじさい

**所長対談**

萩原所長 × 指宿所長

**職員インタビュー**

高橋さん × 井上さん × 小島さん

**PICK UP**

**宿泊所・宿所提供施設**

綾瀬荘 × 葛飾荘

P.10~11

# 地域とともに育む、これからの福祉経営



## PROFILE

小川 幸男

社会福祉法人  
厚生福祉会 理事長

今回は、当法人の理事であり、あわせて社会福祉法人厚生福祉会の理事長としても福祉の現場に携わる小川氏にインタビューを行いました。複数の法人に関わる立場だからこそ見えてくる、福祉経営の現実や可能性について、お話を伺いました。

Q1 当法人の取り組み等について、どのような印象をお持ちですか？

現在の事業団の取り組みは大変良いと思います。理事会は執行機関であり、その意見・議論がしっかりできている印象です。また、今年度から経営企画課プランニング担当部門を設置している点にも注目しています。保育分野で言えば、少子化の影響で経営が厳しくなり、閉園に追い込まれる保育園・学童も少なくありません。そうした中で、私の法人においても障害のある児童をできる限り受け入れております。その姿勢自体が強みとなり、ブランド力が生まれ、ニーズも高まっていきます。法人経営において、ブランド力は非常に重要だと思います。

また、事業団には各特別区の「本当に困っているところ」を支えてほしいと思っています。各区のニーズに丁寧に答え、「まず相談してみよう」と思える存在であってほしい。その上で、他の法人にはできないことに挑戦していくことが大切だと感じています。

Q2 厚生福祉会の運営についてもお聞かせいただけますか？

厚生福祉会では、管理職を中心にコンサルタントの力も借りて検討会を立ち上げ、職員の見も反映させた実行計画を作成しています。計画の中に職員の見が反映されることで、意識は大きく変わると感じています。また、人材育成にも力を入れています。等級ごとの研修では、等級が切り替わるタイミングで1等級と2等級の役割を表にして整理し、自身の振り返りを行っていただいています。また、コミュニケーション研修を充実させ、OJTでは法人理念をテーマに据えています。

尚、厚生福祉会では、延長保育や一時保育といった制度がまだ整っていなかった時代から、それに相当するサービスを提供してきました。常にニーズを先取りする姿勢を大切にしていきます。

Q3 今後の福祉をどのように見えていますか？

地域貢献は、今後ますます求められていくと思います。法人は地域があつてこそ成り立つ存在なので、地域で困っていることに耳を傾け、相談に乗ることが重要です。また、法人同士のつながりも欠かせません。一つの法人ではできないことも、ネットワークを持つことで可能になります。厚生福祉会も法人ネットワークに参加して所在地域の協議会活動で相談窓口をマップ化するなどの取り組みを行っています。

そしてなにより、福祉は「人」が中心です。心に熱いものを持っているかどうかで、姿勢は大きく変わります。私は、日常の事業の中で職員が見せるこうした姿勢・熱さを評価し、そこを挨拶に入れたり懇談会で述べるようにしています。加えて、法人理念は現場での拠り所になります。支援の難しい利用者への対応や新たな取り組みに挑戦するとき、その行動の根拠となるのが理念です。

また、コロナ禍においても、福祉の入所施設は休業することができませんでした。特に児童分野では、学校が休校となっても、学童や保育園では支援を止めることはできなかった。その現実も、福祉の重みを物語っていると思います。

「インタビュー」沼田

「文」青柳

「撮影・デザイン」中西

# の特徴

祭り、ハロウィン、

体験会 等

キャンプ、

休み学童プログラム 等

力を入れているところ等

世帯への支援とともに、

後の地域生活に近い生活

# 支援施設とは

れに準ずる状況にある女子)

保護を受けながら自立を目指

を提供するだけでなく、就労支

援など、生活全般にわたるサ

すことを目的にしています。DV

な場合にも利用されます。

# の特徴

ハロウィン、クリスマス会 等

ンプ、母親プログラム、

グラム 等

や、力を入れているところ等

多いため、就労の継続を重視した

のうち生活支援部分を担い、産前

している。

会議や情報共有をスムーズに

# 施設概要

・開所:平成 22 年 6 月

・定員(世帯):一般 20 世帯

緊急 2 世帯

罹災 2 世帯

◎一般…ひとり親(母子)世帯に対して、居所の提供及び自立支援に必要なサービスを提供する。

利用期間:原則2年(協定区(施設と運営協定を締結している区)が利用。

一部条件付きで23区からの広域利用が可能。

◎緊急…緊急に保護する必要がある女性世帯へ居室の提供及び応急的な相談対応、安全確認を行う。

利用期間:原則1か月(協定区独自事業)

◎罹災…火災等で被災した世帯に居室の提供及び必要な日用品の支給と安全確認を行う。

利用期間:原則7日間(協定区独自事業)

・部屋:一般 居室(2DK 15戸 1K 5戸)

他 集会室・学習室・保育室・静養室

緊急 居室(2DK 1戸 1K 1戸)

罹災 居室(2DK 1戸 1K 1戸)

# のぞみ荘

# 今回は!

# 母子生活支援施設

# を紹介!



## ◎施設の年間行事

・各種行事: ひなまつり、七夕、夏祭り、クリスマス会、もちつき

・他イベント: 親子遠足、学童宿泊、母親プログラム、長期休み学童プログラム

## ◎他の施設にはない特徴的なこと

・親と子どもそれぞれに担当者を配置し、個別支援も行っている。

・アパートに近い施設環境を活かし、退所環境を提供している。



## 施設概要

・開所: 令和3年4月1日

・定員(世帯): 母子生活支援施設(一般) **9**世帯  
妊産婦等生活援助事業 **1**世帯  
母子等緊急一時保護事業 **1**世帯

◎母子生活支援施設(一般)…ひとり親(母子)世帯に対して居所の提供とともに、自立に向けた生活・就労・子育て等の支援を行う。

利用期間: 原則2年間(施設と指定管理協定を締結している実施区が利用を決定)

◎妊産婦等生活援助事業…困難を抱える特定妊婦や出産後の母子に対して、関係機関と連携しながら産前から産後までの支援をする事業。実施区が主体で実施し、施設ではこの事業のうち生活支援の部分を担っている。

利用期間: 産前～産後4カ月頃までが目安(実施区事業)

◎母子等緊急一時保護…緊急に保護が必要な女性単身及び母子・父子世帯に対し居室の提供と応急的な相談対応、安全確認を行う。

利用期間: 原則2週間(実施区独自事業)

・部屋: 一般 居室(1K 9戸)  
他 集会室・学習室・保育室・静養室  
妊婦 居室(1K 1戸)  
緊急 居室(1LDK 1戸)

## 母子生活支援

配偶者のいない女子(またはこども)と、そのこどもが共同で入所し、生活するための施設です。単に住まい支援、生活相談、こどもの教育支援サポートを行い、親子の自立を促進。被害者など、緊急で保護が必要

## あじさい

## ◎施設の年間行事

・各種行事: ひなまつり、夏祭り、クリスマス会、もちつき

・他イベント: 親子遠足、学童キャンプ、長期休み学童プログラム

## ◎他の施設にはない特徴的なこと

・就労率及び就労意欲が高い利用者が多く、個別支援を行っている。

・実施区が行う妊産婦等生活援助事業から産後まで切れ目のない支援を実施している。

・建物が関係機関と合築になっており、退所環境を提供している。



# メンブ

# あじさい

# のぞみ荘 萩原 所長



割を担います。こどもの気持ちや状況にも配慮しながら、母親の思いも受け止め、双方が納得できる形で支援を進めていくことを大切にしています。

— 母子生活支援施設の支援のおさえどころとはどこだ、というようなポイントがもしあれば教えてください。

萩 子どもの支援が中心であるということです。そして生活保護の施設とは違い、支援に「自立」のような明確な目的がないから、家族に関わる関係期間や社会資源のコーディネート、家庭内の関係調整が重要になります。そのためどういふふうな切り口で支援を組み立てて展開していくか、職員の数やカラーを出せる。もちろんスーパーバイズしたり、いろいろな立場の団体と相談・連携もしていくが、結局は施設としての力量が求められる。他にも、規

則はあるけれど規則違反をしたからといって、こどもがいる以上簡単には退所にできない。ひたすら職員が受け止めながら、説得と支援アプローチを繰り返して頑張っています。

— これから先、こどもや母親にとってどんな施設であり続けたいと考えていますか。また力を入れていきたいことはありますか

萩 個人的には、地域に開かれた施設にしたいなって思っています。

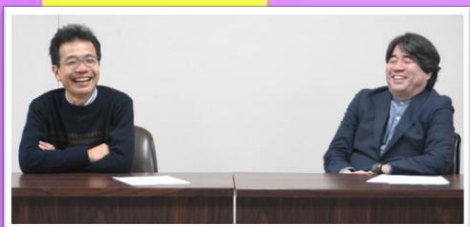
指 母子支援を取り巻く状況も少しずつ変わりがつあります。秘密性やDVシエルターとしての機能が強調されるあまり、利用できる人が限定されたり、対象とならない方が別のシエルター施設を利用するケースもあります。

萩 むしろ、母子生活支援施設が地域にあって、地域の一人親支援をやっている拠点であることを公開して、地域の人に守ってもらった方がよいのか。あえて言うなら、単独機能ではもたない施設なので、高機能、多機能化という潮流の中で、いずれはのぞみ荘にできる機能を増やしていければと最近考えています。

指 区の新たな事業として、今年度から「妊産婦等生活援助事業」による生活支援を当施設で担い、妊産婦の受け入れを開始しました。これまでに1世帯の実績があり、現在は一般母子世帯へ移行し支援を継続しています。妊娠前から生活再建まで継続して支援できることも大切な役割です。来年度には母子一体型ショートケア事業（母子が短期利用できる事業）がスタート予定です。地域の母子が一時的に利用するケースのほか、児童相談所の一時保護解除後に母子

で利用するケースも想定しています。地域の母子の場合は、離婚を迷っていて距離を置きたい方などの利用を想定しています。また一時保護解除後の利用については、生活上の課題への対応や環境調整を行うことを目的とします。利用期間はいずれの場合も1週間程度です。今の職員にも法人のさまざまな職場を経験してもらい、その経験を共有していければと思っています。更生施設や自立支援センターにはない、人の生活に深く関わるやりがいがあります。つらい場面も喜びにつながる、心揺さぶられる仕事です。こどもの人生の大切な時期に関わる施設として、社会がこどもを育てる視点をお母さんとともに実践していきたいです。職員みんなで担い、事業団の母子施設を盛り上げたいです。

萩 母子生活支援施設と事業団の他の施設はけっこう繋がっている。けやき荘や宿提・宿泊所とかね、色々繋がりはあります。指 母子生活支援施設や更生施設、自立支援センター、救護施設まで含め、事業団は非常に幅広い分野をカバーする組織です。他法人は母子施設と児童養護施設など同じ分野を運営することが多いですが、事業団は異なる分野の施設を運営するため多様な経験を持った人材がいます。これは事業団ならではの強みだと思っています。



「インタビュー・文川佐藤（香）・三井・青柳」  
「撮影・デザイン川中西・森・早瀬」



# 母子生活支援施設

## 所長インタビュー

——母子生活支援施設の対象者は、どんな方たちですか。また最近の傾向などはありますか

指 18歳未満の子どもを養育しているひとりの親世帯で、その中で様々な事情により地域生活が困難になっている母子世帯が対象となります。入所後はまず施設で安心して暮らしてもらい、生活上の課題を一緒に整理しながら、概ね2年間を通して自立に向けた支援を行っています。離婚しているかどうかは問いません。お母さんが子どもを育てる意思があり、本人の入所希望があれば行政を通じて入所となります。児童福祉法に基づく入所施設の中で、母子と一緒に生活できる施設であることも特徴です。

最近若年層の利用が増えている傾向があり、それに伴い乳幼児への支援が中心となっています。

——利用者さんが母子生活支援施設を利用する際に受けられる支援はどのようなものでしょうか

指 当施設は母親を支援する場所であると同時に、子どもの養育環境を整えることに軸を置いていて、「子ども中心」に支援を組み立てています。母親の課題と一緒に解決し生活を安定させていくことで、子どもの養育環境の安定に繋がっていく。母親の支援の先に子どもの支援があるというところに特徴があります。

また、成人の施設と違って自立のみをゴールとはしていない。一定期間で答えは出していないかもしれないが、自立というシンプルなゴールではないのも特徴的です。

——母子生活支援施設の良いところはどこなところですか

指 完全には無理でも見守りがある程度でできる。家庭内でけんかになって、感情的になってしまったとしても、施設であれば誰かの目が必ずあるので周りが気付いて、行き過ぎる前に止めることができます。

指 当施設は、母親（乳幼児含む）担当の支援グループと、小学生以上の子ども担当のグループに分かれて支援を行っています。同じ世帯でも子どもの年齢等に応じて複数の職員が関わります。兄弟間で自分の担当職員の話したり、職員も担当する子どもへの思い入れが強くなります。兄弟げんかのような場面では、それぞれの担当職員が間に入って関わることもあります。一つの世帯を複数の職員で支える体制になっていることが、母子生活支援施設の特徴です。

——支援のなかで苦手とするところはどのようなところでしょうか

指 自分が母子に赴任してすぐのケースとして、若い母子が入所後しばらくはゆっくりと子ども2人で過ごしたいと言っていた。「いいんじゃないか。」と自分は考えたが、職員に「早く子どもが通う保育園を決めた方がいいですよ。」と叱られた。子どもは一日一日の成長が著しい。母の養育面での成長を待つ余裕はなく、早くプロの手に預け、同じ月齢のこともたちと関わり学び方が、子どもの成長には良い場合がある、という理由からだった。確かに入所直後はまだ母も不安定な状況にある場合も多

く、子どもの養育環境を整えるという視点では、保育園のような社会資源が大切になる。自分の視点が大人に向かっていると気づかされた、今でもよく覚えているケースです。

指 母親を支援する職員と、子どもを担当する職員の間で葛藤が生じることもあります。現場では母親の意向を尊重する必要もありますが、常に優先されるわけではありません。子どもの権利や安全を守ることも大切であり、その間で葛藤が生まれます。母親の話は丁寧に聞き、意向を受け止めながらも、一方で子どもに負担がかかり過ぎないように職員が緩衝材のような役



マサヒロ・ド・あじさい

指宿 所長

# 職員 インタビュー



のぞみ荘

メゾン・ド・あじさい

のぞみ荘

高橋さん

井上さん

小島さん

## ◎担当業務について教えてください

高橋：必ず母と子どもで担当がつき、入所理由によっては心理士が関わってきます。課題があって入所する方も多いので、母子間で衝突することも大いにあります。その際にお母さんの味方に就く人が母子支援員、子どもの味方につく人が少年指導員となっています。わたしは心理士として心理療法を主に担当しています。通称「イルカの部屋」と呼ばれる心理室があり、そこで心理療法を行っています。生活支援というよりは、DV被害や子どもの虐待等のトラウマからの回復がメイン業務になります。

井上：私は子ども担当です。正式には少年指導員という役割になります。基本的には学童児の放課後や長期休みのプログラム、誕生日会の企画実施をしています。また、あじさいは現在新生児が多いので、必要に応じて保育に入ることもあります。学校の休みの日は個別プログラムとして、子どものやりたいことをやるプログラムを行います。Switchと一緒にゲームをやったりもします(笑)。

小島：私は母子支援員として、お母さんや乳幼児さんの担当をしています。乳幼児さんの保育をしたり、保育園に通っている子は帰ってきた時に声をかけたりして関わっています。お母さんとは、弁護士相談や通院の方法など、気になっていることを調べてお伝えしています。帰ってきた時に仕事でこんなことがあったとか転職したいなどの相談にも関わっています。

## ▼のぞみ荘 心理室「イルカの部屋」



## ◎母子の支援の特徴についてそれぞれ教えてください

井上：それぞれというよりは、互いに関連しています。子どもの支援をするにも、お母さんに確認することは大事です。母を飛び越えて支援はできない。子どもにとってはプラスになるかもしれないことも、母に先立っての支援はちょっと筋が通らないので…。母子施設のことも支援の特徴なのかなと思います。

高橋：ただ、児童福祉施設なので子どもの権利というところはあります。外から見ると少年指導員がそこに葛藤しているなんて感じはします。子どもの権利、子どもの主張は大事にしないといけない。お母さんと信頼関係を作った上で、この担当になら頼ってもらいたいと思ってもらえるか、少年指導員は葛藤しながら支援していると思います。

井上：ここが母子担当と少年担当のチーム支援のポリシーの下です。子どもの支援について母子担当からお母さんに伝えてもうちのポリシーである、母子担当と相談しながら、どう支援していくか。

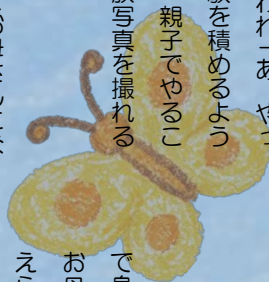


**小島**：入所することも社会経験が少ない場合が多いです。高校生の子と遊園地に行った際、「絶叫系乗れるの？」と聞くと「乗ったことないからわからないです」と言った子がいます。1から経験を積む必要がある子たちが入所していることに気づきました。誕生日が言えない子がいたら、一生思い出に残るよう盛大に誕生日をお祝いして、誕生日が言えるようになればいいなと思っています。それから親子遠足の時は、家族写真を今まであまり撮らなかつたと言われ「あ、やって良かったな」って。こどもが社会経験を積めるようにと思って作ったプログラムでしたが、親子でやることも意味があるなと思い、たくさん家族写真を撮れるような行事を作りたいなと思いました。

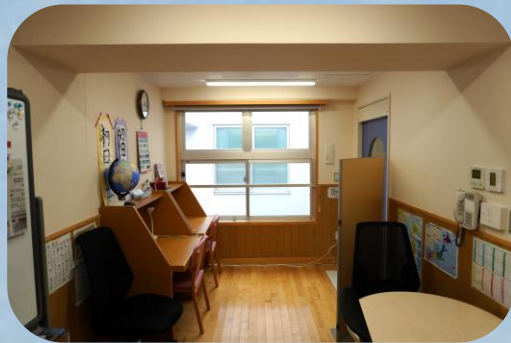
**高橋**：お母さんも過酷な生育歴があつてお母さんになつている人たちがいます。七五三を祝つてもらつたことがない、お雛祭りをなんでやるのか分からない、雛人形を飾つてもらつたことがない、など。こどもだけじゃなくお母さんにとつてもこどもで経験してもらふことで、今後の子育てに役立つといひね、と行事を企画しているところもあります。そこは母と子の支援で共通しているかもしれないですね。

**◎行事はどんなものがありますか**

**小島**：長期休みごとに遠出をしていますね。春休み（進級進学祝い遠足）、夏のキャンプ、冬休みのプログラムなどがあります。夏のキャンプは子ども達だけでキャンプに一泊行きます。これは良いなと思つていて、学校で宿泊学習に行く前に宿泊体験できるの、あ、全然自分



**▼あじさい 学習室**



で身体洗えないな、「好き嫌いが多い」など見て分かり、お母さんに助けてもらうことや学校の先生に事前に伝えられるので、とても良いなと思います。

**井上**：長期休みのプログラムだと、小学校は宿題があるので、夏は自由研究を提出できるような工作を入れたり、冬は書初めをやったり。こどもの施設ならではだと思つのは、学校行事の授業参観や運動会、学芸会に職員が観に行くこともあります。そこに行くことも同士の関係や、学校でどう過ごしているかも観ることがあります。

**◎こどもの成長を感じるのどんな瞬間ですか**

**井上**：以前入所していた子の例だと、言葉の前に手が出してしまう子だったので、「貸して」と言つてから渡す練習を繰り返しました。次第に職員が「貸して」と言つて「いいよー」と言つてくれて、そういう変化を感じられるのが面白いなと思つていますね。

**▼あじさい 保育室**



**▼のぞみ荘 保育室**



**高橋**：お母さん達の変化も感じられます。こどもを注意する時に手を出してしまうお母さんが1年後の行事では口頭で注意できるようになつて、こどももそれにちゃんと反応していることもあつたので、行事も凄く成長が確認できる瞬間かなと思います。

**◎あじさいとのぞみ荘の職員間でやりだつたことはありますか**

**小島**：のぞみ荘のこども達をあじさいの学童に連れて行つたり、逆にあじさいの学童の子に来てもらつたりして、こども同士で交流出来たら良いだろうな、と思つています。色々な施設や色々な人がいることをこども達に知つてほしい、交流できる行事があれば良いなと思つています。あじさいとのぞみ荘、合同であれば団体予約ができて割引もきく（笑）。職員の支援の目も増えて、他の職員の支援のやり方も見られるので良いなと思つています。

インタビュアー：文川三井・添野・青柳  
撮影：三井・森  
デザイン：森

「宿所提供施設」と種別や根拠法が異なる施設でインタビューを中心にをご紹介します。

「インタビューにご協力いただいた方」

・平石さん

入職3年目。大学では福祉を専攻。元々医療ソーシャルワーカーに興味を持っていましたが生活保護分野にも興味を持ち、事業団に入職しました。

・鈴木施設長

施設長として葛飾荘に赴任して5年目。長年の経験を活かし、施設を運営しています。

——平石さんは入職してすぐ葛飾荘に配属され3年目ですね。葛飾荘の支援についてはいかがですか。

アルコール依存のある方への支援が難しかったです。初めは攻撃的な面がありましたが、徐々に関係性ができ、お話ができるようになりました。しかしアルコールがやめられず、アパート転宅はできないまま利用期限を迎えてしまいました。もうちょっと何かできたのではないかと、今でも考えてしまいます。

——支援の中で気を付けているところや心掛けていることはありますか。

ひとりで抱え込まず、周りからアドバイスをもらうようにしています。少人数なので風通しも良く、相談しやすい環境です。他には、利用者さんご本人ができることや、その人の経験に基づいた判断を大切にしています。1日でも早く自立することは最低限の関わりにとどめ、支援をしすぎないように心掛けています。



＜居室＞

南向きで日当たりの良い居室。生活に必要な家電も揃っています。

# 葛飾荘

——支援をしていてやりがいを感じる場面や嬉しい場面を教えてください。

生活保護をテーマにした漫画やドラマなどで、保護を受けている方の壮絶な過去が描かれていたりしたので、つらい現場であるという印象をもっていました。実際に仕事をしてみて、確かにつらい過去を持っている方は多いですが、次へ向かって頑張ろうとしている今の姿を知り、少しでも応援できればという気持ちが強くなりました。この仕事を選んでよかったと思っています。



＜多目的室＞

書籍や玩具を設置しています。

——ここで施設の沿革や全体のことについて鈴木施設長にもお話をうかがいたいと思います。

現在、12世帯16名の方が入所中です（インタビュー実施日現在）。また、葛飾荘では過去に難民の受け入れなども行ってきた歴史があります。

——葛飾荘として今後取り組みたいと考えていることなどはありますか。

これまで、町会の防災訓練に参加したり、社協まつりのボランティアをしたりしてきましたが、社会貢献活動については、もっとやっていきたいと考えています。現在、葛飾区社会福祉法人ネットワークに加入して定期的に会議に参加していますが、葛飾区で課題となっていることをキャッチして、一緒に検討していくことで、地域での役割を考えていければと思っています。

——宿所提供施設にも母子世帯が入所されると思いますが、母子生活支援施設との違いはどのような点でしょうか？

母子生活支援施設とは根拠法が違うので、宿所提供施設では、生活保護のケースワーカーが一義的な窓口になります。児童相談所や子ども家庭支援センター、各区の子ども支援課等との関わりも直接的ではなくなるため、福祉事務所を通して調整していかなければなりません。母子の支援の際、そこは難しいところになると思います。

——先ほど平石さんから支援の難しさ等についてお話をうかがいましたが、施設長として感じることはありますか。

宿所提供施設での支援の難しさというものはあると思いますが、「人を支援する」という点では、更生施設やその他の施設とも共通しています。平石さんは、1年目で葛飾荘配属になり、大変だったと思います。手取り足取りとはいきませんが、今後の仕事に活きるように、根拠を示して説明するようになってきました。生活保護制度や運用事例集を理解していれば、ケースワーカーと同じ目線で、協働して支援を進めていくこともできると考えています。

# 宿泊所 綾瀬荘

当法人が運営する綾瀬荘・葛飾荘は、それぞれ「宿泊所」です。綾瀬荘では施設の設備や環境、葛飾荘では職員イ



<居室>(バリアフリー)  
バリアフリーの居室限定でベッドを設置しています。

——生活保護施設とは違った大変さや苦労は、どんなことですか？

まず、使用料の徴収が大変です。居室の使用料には幅があって、収入額によって異なるのですが、利用者さんが収入額や貯蓄額を多めに話している、入所してみたら所持金がなかったり、非正規雇用で収入が入らないと払えないと言われたりすることもあります。

それから、転居先を決めるのも大変です。生活保護ではないので、収入の低さや預貯金が少ないという理由で、審査に通らないこともあります。生活保護であれば、福祉事務所が家賃や光熱費を支給するため滞納するケースは少ないですが、生活保護を受けていない低所得世帯であると滞納の可能性があるため、審査に通りづらくなってしまいうそです。都営住宅は、収入が多いと入居し辛くなりますし、シェアハウスに繋げることもあります。生活保護の制度に守られているかいないかの差は大きいと感じます。

——綾瀬荘の特徴を教えてください。

現在は、非保護世帯のみの入所です。玄関オートロックがあり、居室インターフォンのカメラで訪問者を確認できるので、セキュリティが高いです。施設がまだ新しいため居室環境も快適です。気持ちよく生活してもらえるよう、食洗器や衣類乾燥機の貸出なども行っています。居室の使用料は、居室の種類により異なりますが、利用者さんから直接お支払いいただけます。

# 綾瀬荘

——綾瀬荘は「建物も居室もきれい」と評判ですね。建物も居室も綺麗な状態を保てるよう、職員一同努力しているので、「きれい」と言っていただけのは嬉しいですね。利用者さんは、それぞれ大変な状況を抜け出して入居されるので、少しでも良い環境を迎えたいと思っています。



<3DK 居室のダイニング>  
キッチンとの距離が近く、調理中も子どもたちの様子を見守ることができます。

——入所される方はどのような方が多いですか？

綾瀬荘はセキュリティが高いので、DV避難での入所が多いのですが、夫や交際相手の元へ戻る方も多くなっています。なぜ戻るかという点、「寂しい」「私がいなければあの人はダメ」といった感情からの行動もあると思いますが、生活保護ではないので、経済的な不安があったり、自由度が高かったりといったこともあるのではないかと思います。

——最後に、宿泊所での支援の魅力を教えてください。

宿泊所での家族支援・女性支援は、非保護という点ともあり、幅広く、奥が深いです。公的な支援だけでなく、その方の地域の繋がりだったり、外国人コミュニティだったり、活用できるものはすべて活用するという勢いで、支援していますが、そういった柔軟さが面白かったりします。

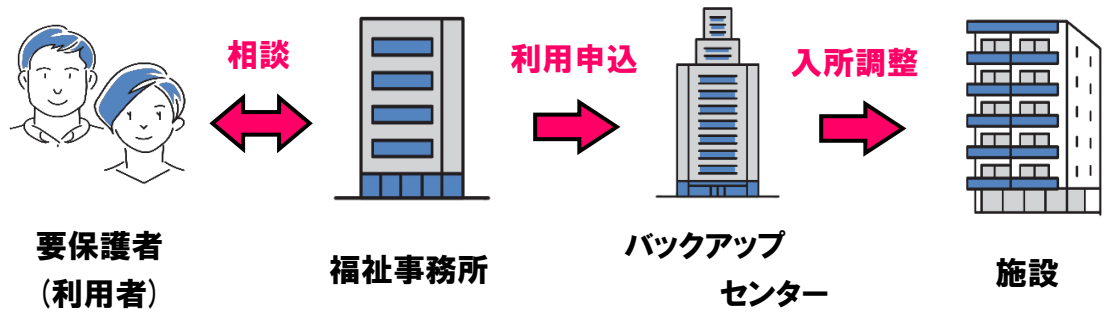
また、職員が少ないので、それぞれに支援の力が求められますが、職員同士相談しあって経験を持ち寄り、難しい場面を乗り越えた時にも達成感がありますね。今の綾瀬荘は、更生施設や母子生活支援施設等、他施設での支援経験を持ったベテラン職員が多く、お互いに助けられています。宿泊所の支援は難しさもありますが、それまでの経験を活かせる面白さもあります。若手職員を丁寧に育てていって、宿泊所での応用編の支援に魅力を感じる職員を増やしていけたらと思います。



<集会室>子どもから大人まで楽しめる様々な図書が揃っています。

「インタビュー・文川佐藤(文)・添野」  
「撮影・デザイン川中西」

# 施設利用・申込について



## 福祉事務所のみなさま

母子生活支援施設  
のぞみ荘 / メゾン・ド・あじさい  
法人本部へご連絡ください  
(03-6666-1046)

宿泊所 綾瀬荘 / 宿所提供施設 葛飾荘  
バックアップセンターへご連絡ください。  
(03-5210-9036)

※その他 施設利用に関するお問い合わせ  
(03-5210-9032)

## 医療機関等・支援関係者のみなさま

宿泊所・宿所提供施設への入所は、福祉事務所からの依頼が必要です。まずは担当のケースワーカーへご相談ください。また、法人本部(03-6666-1046)まで直接お問合せいただくことも可能です。

### バックアップセンターとは？

施設の入退所の調整を行うところです。特別区人事・厚生事務組合が運営しています。略してBUCまたはB/Cと表記することもあります。塩崎荘はバックアップセンターの調整なしで入所可能です。

## 事務局 最終回！ 清水のしょうもない話

ある上司が見た夢の話。私が巨大なカマキリにバックドロップを決め、キーキー言わせていたそうです。夢占いで調べるとカマキリは厄介な問題の象徴らしく、つまり私は大胆で型破りに問題を片づける存在らしい。嬉しいような気もしますが、セコンド席…いや観客席から応援することにします。課長、どうかご容赦ください。

—そして、このバックドロップを最後に、本コーナーは幕を下ろします。これまで本当にありがとうございました。これからは部会員の皆さんを観客席から応援しています！

### 編集後記

本編よりも購読率が高い(らしい)「しょうもない話」が最終回を迎えました。個人的にも好きなコーナーだったので、これまでのバックナンバーを掘り起こし、勝手ながら総集編を編纂しようと思います。清水さん、お疲れ様でした！

【制作・編集担当】中西

## 本号の COVER MODEL

### 高橋さん

インタビューのなかでは、お伝えしきれなかった

ので、ここでちょっとだけ紹介させていただきます!! のぞみ荘を退所したこともたちやお母さんたちからもらったものの一部です。元気にしてるかな～??って思い出したり、久しぶりに遊びに来てくれた時に、一緒に見て当時は振り返ったり…私にとって大切な物です!!

